

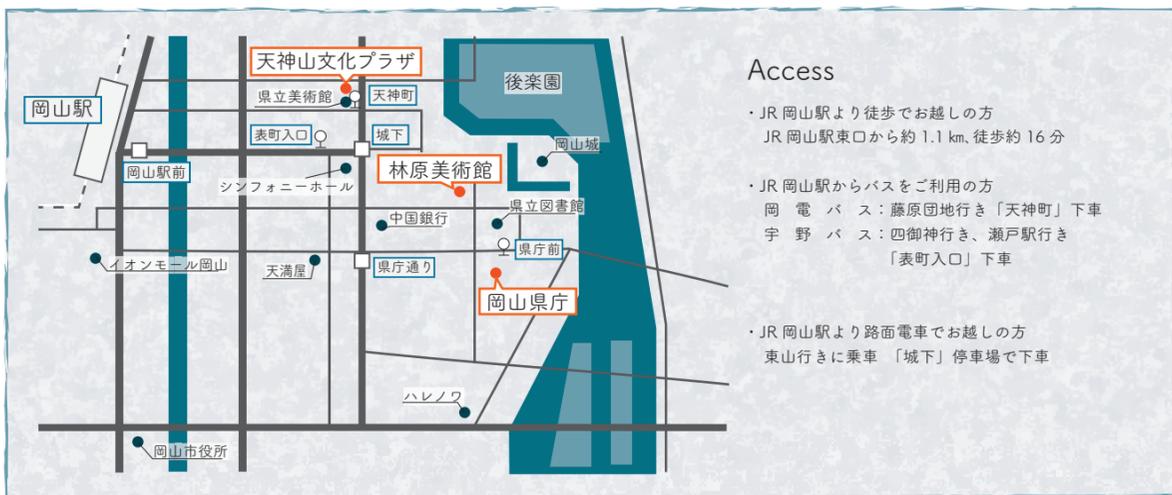
岡山県
天神山
文化プラザ
の
建築
おしり

Architecture Guidebook

TENJINYAMA CULTURAL PLAZA
OF OKAYAMA PREFECTURE



岡山県天神山
文化プラザ



Access

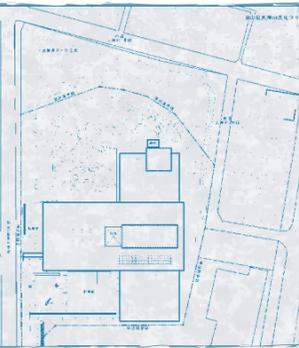
- ・JR 岡山駅より徒歩でお越しの方
JR 岡山駅東口から約 1.1 km、徒歩約 16 分
- ・JR 岡山駅からバスをご利用の方
岡 電 バス：藤原団地行き「天神町」下車
宇 野 バス：四御神行き、瀬戸駅行き
「表町入口」下車
- ・JR 岡山駅より路面電車でお越しの方
東山行きに乗車「城下」停車場で下車

Contact

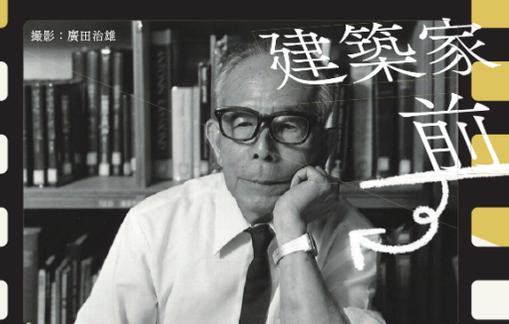
〒700-0814
岡山県岡山市北区天神町8-54 TEL.086-226-5005
URL:https://tenplaza.info/

お問い合わせ受付時間：午前9時から午後6時まで
休館日：毎週月曜日
年末年始（12月28日～1月4日）

デザイン協力
岡山県天神山文化プラザ・岡山大学
担当教員 川西敦史 建築設計学研究室 杉耕太
堀裕典 吉田和音
工学部工学科環境・社会基盤系
都市環境創成コース 磯山亜純
発行：岡山県土木部都市局建築指導課 令和7年10月発行



岡山県天神山
文化プラザ



Kunio Maekawa
建築家前川國男って?

前川國男は、ここ岡山県天神山文化プラザの設計者です。高校時代に建築に興味を持ちはじめ、東京帝国大学（現/東京大学）工学部建築学科を卒業後、モダニズム建築の先駆者である建築家ル・コルビュジェのもとで近代建築の原理を学びました。帰国後、アントニン・レーモンドの事務所を経て、1935年に「前川國男建築設計事務所」を設立しました。前川國男が手掛けた作品は200以上もあり、その中でも公共施設の割合が高く、誰もが知らずのうちに身近な前川建築に触れているかもしれません。前川國男、そして事務所所属のみんなの様々な取り組みによって、その独自の方法で近代建築の考え方を日本へ定着させるために躍進し続け、モダニズム建築の旗手と称されています。

岡山県における代表建築

岡山県にある前川建築としては岡山県天神山文化プラザの他に岡山県庁舎と林原美術館があります。

岡山県庁舎

昭和32年に完成した本庁舎本館は黒色のカーテンウォールの外壁が印象的です。3階にコの字型に配置された回廊は、県庁舎の玄関を明確にしています。回廊の手すりに使われている中が空洞になったホローブリックも特徴的です。令和6年3月に耐震化工事が完了し、同年12月に登録有形文化財に登録されました。

林原美術館

岡山の実業家である林原一郎の遺志を継ぎ、昭和38年に岡山美術館として完成しました。この建物は前川國男にとって初めての美術館建築でもあります。手作業で積み上げられた不揃いな形状のレンガが特徴的で周囲と調和しています。令和5年に登録有形文化財に登録されました。

岡山県庁舎

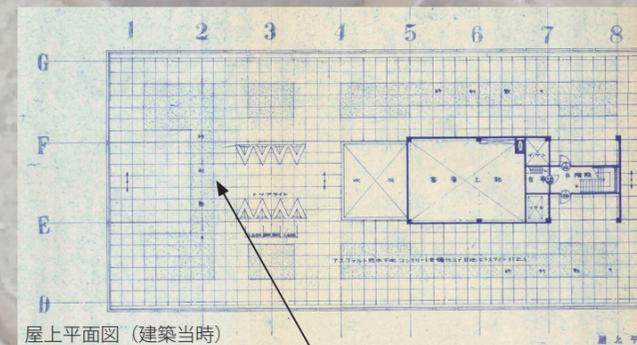


建築を学ぶ大学生ケンチキくん

建築のみどころ ガイドマップ

岡山県天神山文化プラザは昭和37年に「岡山県総合文化センター」として開館し、図書館や劇場、集会室等を併設した複合施設として多くの方に利用されていました。岡山カルチャーゾーンの一角にある天神山に位置するこの地は、昭和20年に岡山空襲で焼失するまで、旧岡山県庁舎があった場所でもあります。

昭和50年に第2展示室を地階に増築し、平成17年には改修を行い、図書館機能に代わって、練習室や会議室を備え、芸術文化活動と文化情報発信の拠点となりました。



屋上平面図 (建築当時)



◀ 屋上庭園

屋上には、三角形の採光窓がベンチを兼ねて並んでいます。これは、建物内部に光を取り入れるために設けられたもので、2階ホールから天井を見上げると、三角形の窓を確認できます。

※通常、屋上へ立入できませんが、岡山県天神山文化プラザへ事前に申し出をし、日程調整を行った上で見学できます。



© 岡山県天神山文化プラザ

◀ 打放しコンクリート

内外装には、打放しコンクリートが多用されています。コストの制約を受けたことが背景にあるようですが、シンプルかつ美しい仕上がりがりから当時の大工たちによる技術力の高さが伺えます。コンクリートの表面には木目や節の模様がついていますが、これはコンクリートを流し込む型枠に杉板が用いられていたためです。



© 岡山県天神山文化プラザ

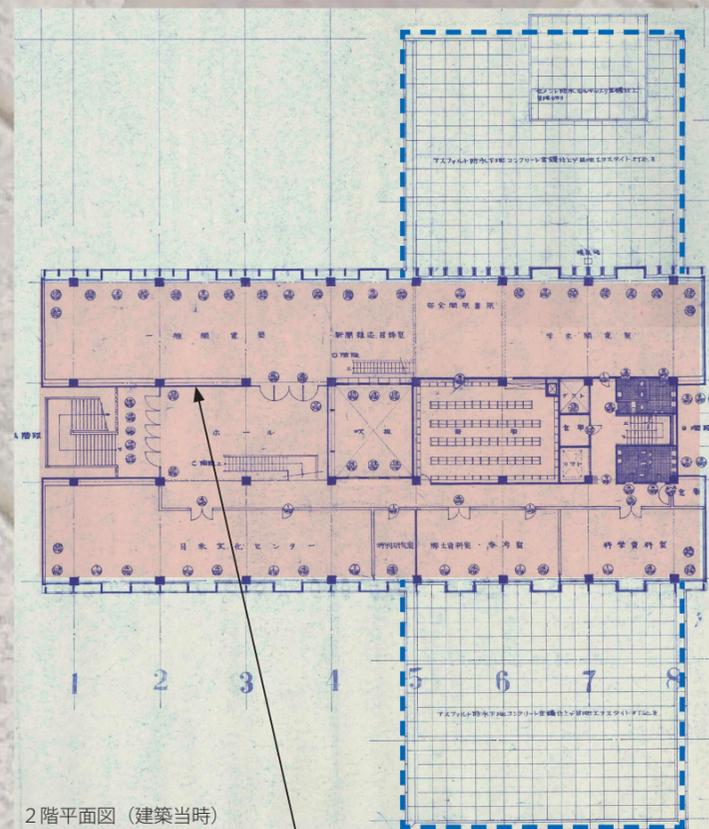


◀ 色彩

建物の各所には、印象的な色が多く使われています。2階ホールの天井には、前川國男が好んで用いた「成層圏ブルー」と呼ばれる青色が使われており、天井にランダムに配置された照明が星空のように見えます。屋上には、出入口の扉と外壁に赤色と青色が使われており、2色の対比が非常に印象に残ります。これらの色彩は、前川カラーと呼ばれ、全国の前川建築にもある見どころの一つです。



© 岡山県天神山文化プラザ



2階平面図 (建築当時)

◀ 2階ホールの壁

コンクリートの壁面には、大小の切れ込みが入っています。これは空調の吹き出し口になっており、イタリアの画家ルーチョ・フォンタナのキャンパスを切り裂いた作品から着想を得たといわれています。



◀ 椅子

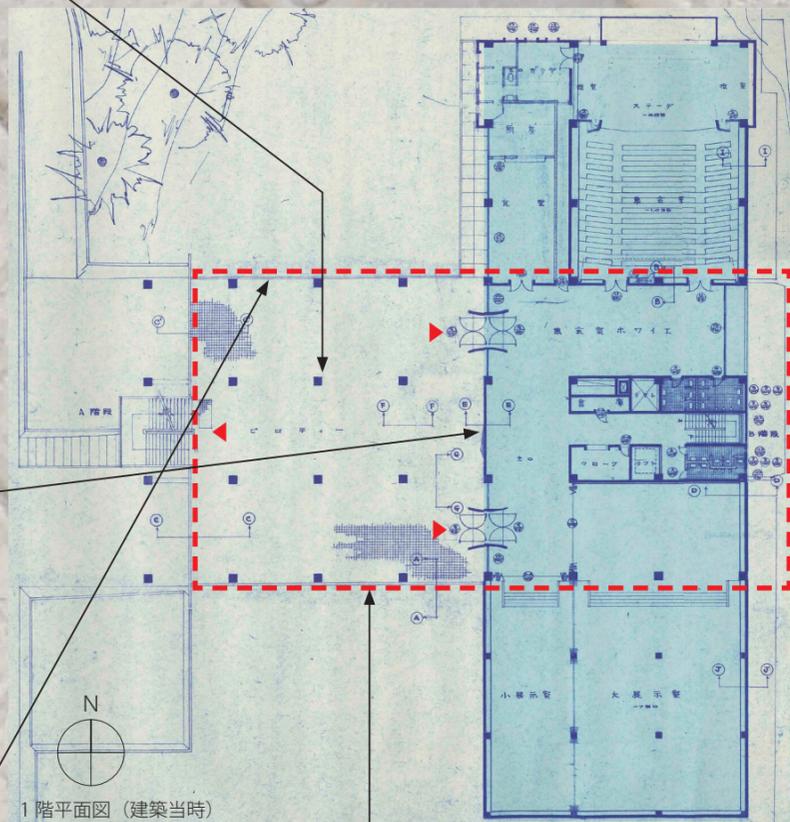
この椅子は、前川國男の事務所に所属していた水之江忠臣が設計したものです。

改修前の図書館の閲覧室で使用されていた椅子ですが、現在は2階の文化情報センターに3脚のみ残っています。



▼ 建物全体の構成

天神山という高台の限られた敷地に対して、それぞれの用途ごとに独立したアプローチを確保しています。1階と2、3階はT字型に直交するように計画され、2階の下部は、ピロティとして広場を作り出しています。建物の外部に広場空間があり、現在の岡山県庁舎と同じ構成になっています。



1階平面図 (建築当時)

◀ ルーバー

南北の水平連続窓の前には、南側と北側で形状の異なるルーバーが取り付けられています。南側は、夏の日差しを防ぐために横向きに、北側は西日を遮るために縦向きに設けられています。

岡山県天神山文化プラザでは、コンクリートが多く使われていますが、ルーバーは細い見付けの部材を正確に作るため、現場打ちコンクリートではなく、工場で作成したプレキャストコンクリートでできています。



▶ ピロティ

壁がなく柱のみで支えられた1階の外部空間です。カラフルな3色の網代張りの床が特徴的です。ピロティは、敷地北側に位置する天神岩と南側の空間をつなげるだけでなく、建物へのアプローチ空間として、1階出入口や、上下階への階段の起点という重要な役割を担っています。



▲ 鳥柱

1階ピロティから屋上にかけて、高さ18mのレリーフが伸びており、2階や3階からも見ることができます。

彫刻家である山縣壽夫(やまがたひさお)によって製作されたレリーフは、この姿になるように型枠と一緒に組み立てられ、コンクリート壁面と一体化した芸術作品になっています。



南側



北側

